第十一講『今鏡』

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

＊大殿の伏見へおはしましたりけるも、（a）<u>すずろなる所へはおはしますまじきに</u>、雪の降りたりけるつとめて、「俊綱がいたく伏見ふけらかすに、にはかに行きて見む」とて、播磨守師信といふ人ばかり御供にて、にはかに渡らせ給ひたりければ、思ひも寄らぬことにて、門をたたきけれど、無期（むご）にあけざりければ、人々「いかに」と思ひけり。かばかりの雪のあしたに、（b）<u>さらぬ人の家ならむにてだに</u>、かやうの折節などは、その用意あるべきに、いはむや殿の渡り給へるに、かたがた思はずに思へるに、開けたる者に、遅く開けたるよし、かふつありければ、「雪を踏み侍らじとて、山をめぐりて侍る」と申しければ、もとより開けまうけ、またとりあへず急ぎ開けたらむよりも、ねんに興あるよし、人々言ひけるとか。

＊修理の大夫騒ぎ出でて、雪御覧じて御物語などせさせ給ふほどに、師信「かく渡らせ給ひたるに、いで、しかるべきあるじなどつかまつれ」と催しければ、俊綱「今＊贄殿参り侍りなむ」と申しければ、「人にも知られで渡らせ給ひたれば、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

贅殿参ることあるまじ。日もやうやうたけて、いかでか御まうけなくてあらむ」と言ひければ、殿笑はせ給ひて、ただ「せめよ」など仰せられけるほどに、家の司なるあきまさといひて、光俊・有重などいふ学生の親なりしをのこ、けしき聞えければ、修理の大夫立ち出でて、帰り参りて、「(c)あるじして聞こし召さすべきやう侍らざるなり。御台などの新しきも、かく御覧ずる山のあなたの倉に置きこめて侍れば、便なく取り出づべきやう侍らず。あらはに侍るは、皆人の用ゐたる」よし申しければ、「何のはばかりかあらむ。ただ取り出だせ」と仰せられければ、「さば」とて立ち出でて、取り出だされけるに、いろいろの狩装束したる伏見侍十人、いろいろの衵（あこめ）に、いひしらぬ染めまぜしたる帷子（かたびら）、括（くく）り、かけとぢなどしたる雑仕（ざふし）十人ひき連れて、倉の鍵持ちたるをのこ、先に立ちて渡るほどに、雪に映えて、(1)わざとかねてしたるやうなりけり。先に跡踏みつけたるを、しりに続きたる男女、同じ跡を踏みて行きけり。かへさには、御台、高杯（たかつき）、白銀の銚子など、一つづつささげて、鍵持ちたるは、このたびは後（しり）に立ちて帰りぬ。

かかるほどに、上達部・殿上人、蔵人所の家司、職事、御随身など、さまざまに参りこみたりけるに、この里かの里、所々にいひしらぬ供（そな）へども、目もあやなりけり。師信「いかにかくはにはかにせられ侍るぞ。かねて夢など見侍りけるか」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

などたはぶれ申しければ、俊綱の君は「(2)いかで、かかる山里に、かやうの事侍らむ用意なくては侍るべき」などぞ申されける。

伏見にては、時の歌詠みどもつどへて、和歌の会絶ゆるよなかりけり。伏見の会とて、いくらともなく積りてなむあなる。「*音羽の山のけさは霞める」など詠まれたる、いと優に侍るかし。かやうにもて興ぜらるるあまりに、(3)ふけらかし参らせられけるにこそ。*四条宮の女房、あまたあそびて、暮れぬさきに帰り給ひければ、修理の大夫、

A　都人暮るればかへる今よりは伏見の里の名をもたのまじ

となむ詠み給ひける。

（『今鏡』による）

＊大殿―藤原師実。
＊修理の大夫―橘俊綱。
＊贄殿（にへどの）―調理をする人。
＊「音羽の山のけさは霞める」―『後拾遺和歌集』に見える俊綱の和歌の下句。上句は「逢坂の関をや春も越えつらむ」。
＊四条宮―藤原寛子、後冷泉天皇の皇后。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　傍線部（a）（b）（c）を現代語訳しなさい。

（a）＝

（b）＝

（c）＝

問二　橘俊綱がとった傍線部（1）の具体的な行動を、問題文から十字以内でそのまま抜き出しなさい。

問三　傍線部（2）「いかで、かかる山里に、かやうの事侍らむ用意なくては侍るべき」について、「かやうの事」を具体的に説明して現代語訳しなさい。

問四　傍線部（3）「ふけらかし参らせられけるにこそ」について、橘俊綱がそのようにした理由を説明しなさい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　Ａの和歌について、使用されている技法を説明した上で、現代語訳しなさい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十一講　復習問題

①「いかなる身の宿世（すくせ）にて、かばかりの人の、すずろなる歩きをし給ふらむ」の傍線部の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　一途（いちず）な
イ　無理な
ウ　無意味な
エ　あわただしい

②「御手書かせたまふことをぞ、わざと書きやつさせたまひける」とありますが、どのようにしたのですか。その説明として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　兄が書いたものをお手本にして、故意にその筆跡を偽造してみせた。
イ　自分の筆跡が兄に見劣りしないように、兄の字体を積極的にまねた。
ウ　兄が書いたものにわざわざ手を加えて、字を下手に見せようとした。
エ　自分の筆跡を兄のものと比較されないよう、意識的に粗雑に書いた。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③　次の文章を読んで、傍線部の意味として、最も適切なものを後の中から選べ。

大鷦鷯（おほさざき）の天皇の、たかみくらにのぼらせ給ひて、詠ませ給へる御製、

　高き屋にのぼりて見ればけぶり立つ民のかまどもにぎはひにけり

〈中略〉かまどなどは、歌に詠まむには卑しき詞なれど、かみ詠みおかれぬれば、はばかりなし。

ア　これ以外に神が詠んだ歌の中にもあるので、用法に問題はない
イ　古い時代から詠み継がれているので、由緒正しい歌語と言える
ウ　すでに天皇が詠んでいるので、歌に詠み込んでも差し支えない
エ　高貴な身分の人が詠む歌の題材としては、似つかわしくない

④　「あしたの雪の日にあへる如く、じみじみと色変じて、忽（たちま）ちむなしく枯れにけり。」の傍線部の意味として、最適なものを次の中から選べ。

ア　明日が雪であることを予告するように
イ　あたかも雪の日の再会を約束するように
ウ　明日の雪が二人の来世を祝福するように
エ　さながら朝の雪が太陽の光でとけるように

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十一講　模範解答

問一（ａ）目的のない所へはいらっしゃるはずがないのに
（ｂ）たいしたこともない人の家であるような所でさえ
（ｃ）ご馳走をして召し上がっていただける食べ物がないとのことです

問二　雪を踏み侍らじ（七字）

問三　どうして、このような山里で、突然の来訪者がございますような際の準備がないことがございましょうか、いや、準備なしではいられません

問四　伏見では、評判の歌詠みが集まって、和歌の会を催し、たくさんの優雅な和歌が詠まれ、人々に興味を持たれたり、突然の来訪者にも対応できる準備をしているから。

問五　地名の「伏見」に、宿泊するという意味の「伏してみる」が掛けられている。都の人が、日が暮れたので帰ってしまう。今からは、「伏してみる」という伏見の里の名をあてにしないようにしよう。

〈現代語訳〉

大殿〔＝藤原師実〕が伏見へいらっしゃったときも、目的のない所〔＝当てもない所〕へはいらっしゃるはずがないのに、雪が降った早朝、「俊綱がとても伏見を自慢するので、突然だが行ってみよう」とおっしゃって、播磨守師信という人だけをお供として、突然お出かけになったところ、思いも寄らないことで、門を叩いたけれど、いつまでも（門を）開けなかったので、人々が「どうしたのか」と思った。これほどの雪の朝に、たいしたこともない人の家であるような所でさえ、このような時節などは、そういう〔＝来訪者がある場合の〕心遣いがあるべきなのに、まして大殿がおいでになったのに（なかなか門を開けないので）、あれやこれや心外に思っていると（ようやく門を開けたので）、開けた者に、開けるのが遅かったわけを、お尋ねになったところ、「雪を踏まないようにしましょうと思いまして、山をまわっ（て来）たのです」と申し上げたので、もともと（門を）開けて待ち受けていたり、また何はさておいても急いで開けたりするような場合よりも、心配りが面白いということを、人々が

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

言ったとかいうことである。

修理大夫〔＝橘俊綱〕が慌てて出て来て、（大殿が）雪を御覧になってお話などなさるうちに、師信が「こうして（大殿が）おいでになったのだから、さあ、それにふさわしいおもてなしなどをいたしなさい」と催促したので、俊綱が「すぐに調理をする人が参るでしょう」と申し上げたところ、「人にも知られないでおいでになったので、調理をする人が参ることはないでしょう。日も次第に高く昇って、どうしておもてなしがなくてよいことがありましょうか」と言ったので、大殿は笑いなさって、ただ「催促しろ」などとおっしゃっていたときに、家司であるあきまさといって、光俊・有重などという学生の親であった男が、それとないそぶりをいたしたところ、修理大夫が席を立って出て、戻って参って、「ご馳走をして召し上がっていただける食べ物がないとのことです。御台などの新しいものも、このように御覧になっている築山の向こうの倉にしまい込んでありますので、不都合にも取り出すことができません。今出ていますのは、みな人が使った（ものです）」ということを申し上げたところ、（大殿は）「どのような差し支えがあるだろうか、いや、ない。すぐに取り出しなさい」とおっしゃったので、「それでは」と言って立って出て行き、取り出されたが、色とりどりの狩装束を着た伏見侍が十人、様々な色の袙の上に、言いようもなくすばらしく染めませてある帷子で、括りや、かけとじなどをしてあるのを着た雑仕十人を引き連れて、倉の鍵を持った男が、先頭に立って行くときには、雪に映えて、わざわざ前もって準備していたようであった。先に踏みつけた足跡を、後に続いている男女が、同じ足跡を踏んで行った。帰りには、御台、高坏、白銀の銚子などを、一つずつ捧げて、鍵を持った男は、今度は一番後に立って帰って来た。

こうしているうちに、上達部、殿上人、蔵人所の家司、職事、御随身などが、それぞれに参上して込み合って来たので、この里やあの里の、あちらこちらに何とも言いようがないほどすばらしいご馳走などが（たくさんあり）、まぶしいほどに豪華であった。師信が「どうしてこんなに急に用意できたのですか。前もって（殿がいらっしゃる）夢などを見たのですか」などと冗談を申し上げると、俊綱の君は「どうして、このような山里で、このような突然の来訪者がございますような際の準備がないことがございましょうか、いや、準備なしではいられません」などと申し上げなさった。

伏見では、その当時の歌人たちを集めて、和歌の会が催されないときはなかった。伏見の歌会（で詠まれた歌）として、数多く（秀歌が）残っているとかいう。「音羽の山が今朝は霞んでいることだ」などと詠まれた歌は、とても優美ですよ。このよう

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

に面白がられるあまりに、（俊綱も伏見を）ご自慢申し上げなさったのであろう。四条宮の女房が、大勢伏見で楽しんで、日が暮れないうちに帰りになさったので、修理大夫が、

都人……＝都の人は日が暮れたので帰ってしまう。今からは「伏してみる」という伏見の里の名をあてにしないようにしよう。

とお詠みになった。

〔重要単語〕

○すずろなり【漫ろなり】…①**なんとなく〜だ**。②**むやみやたらである**。③**思いがけない様子**。④**用のない様**。

○つとめて…①**早朝**。②**翌朝**。

○にはかなり【俄なり】…**急**なさま。

○あした【朝】…①**朝**。②翌朝。

○まうけ【設け・儲け】…①**準備**。**用意**。②**ごちそうの用意**。③食事。

○あるじす【饗す】…**主人として人をもてなす**。饗応する。

○びんなし【便無し】…①**不都合だ**。②**よくない**。

○はばかり【憚り】…①**遠慮**。②支障。

○わざと…①**わざわざ**。②正式に。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十一講　解答解説

〔解説〕

① 「すずろなり」は、重要単語で「なんとなく〜だ・むやみやたらである、思いがけない様子、用のない様」の意味。原義は「意に反して、または、意に関係なく（無意味に）ある方向にひたすら進んでいくさま」である。よって、正解はウ。

② 「わざと」は、重要単語で「わざわざ」の意味。よって、正解はウ。ちなみに、「やつす」も重要単語。「（高貴な姿が目立たないように）みすぼらしい様をする」という意味があり、「書きやつす」＝「下手に（書いて）見せる」という解釈も正しい。

③ 「はばかり」は、重要単語で「遠慮・支障」の意味。「かみ」は、漢字で書くと「神」と「上」があり、「上」なら「天皇」という意味がある重要単語（「うへ」とも読む）。文脈判断で「かみ」は「上」とわかる。「はばかりなし」の解釈も「差し支えない」とおかしくなく、正解はウ。

④ 「あした」は、重要単語で「朝・翌朝」という意味。よって、正解はエ。

〔解答〕

①　ウ　②　ウ　③　ウ　④　エ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。